

令和7年度 檜原村立檜原中学校経営計画

檜原村立檜原中学校
校長 中村 祐子

1 目指す学校像

- (1) 基礎・基本を確実に身に付け、活用できる力を育む学校
- (2) 檜原村を愛し誇りに思い、豊かな人間性を育む学校
- (3) たくましく生きるための健康や体力を育む学校

檜原学園の教育理念「一人一人の個性を生かす『生きる力』を育てるために、児童生徒一人一人に視点をあてた一貫教育を行う」に基づき、一人一人が、郷土檜原の誇りを胸に、9年間の学びを深め、持続可能な社会の創り手となり、希望に満ちた世界を創る人材（グローバル人材）となることを目指した学園目標：『学びをつないで持続可能な社会の創り手を育てる』を具現化する学校を目指す。

＜学園訓：つなぐ つなげる つながる＞

ビジョン

《一人一人が自分の花を咲かせられる学校 ウェルビーイング檜中》

- 生徒も教師も高め合える学校 ～檜中で学べて良かった・檜中で働けて良かった～
- 保護者・地域から愛される学校 ～檜中に通わせて良かった・檜中があって良かった～

2 目指す生徒像

- (1) 自ら学ぶ檜原中の生徒
- (2) 明るく素直で、感性豊かな檜原中の生徒
- (3) 元気な体をつくる檜原中の生徒

3 目指す教職員像

- (1) 生徒に寄り添い、深く、正しく理解し、生徒のよさや可能性を引き出す教職員
- (2) 生徒と共に学び、自らも授業力向上に努める教職員
- (3) 教育公務員としての責任感と誇りをもち、組織的に職務を遂行する教職員

4 教育目標

- (1) 学び考える人〔主体的に学ぶ力〕自ら学ぶ姿勢を身に付け、課題解決することができる生徒
- (2) 心の豊かな人〔主体的に判断する力〕自ら考え、他者の意見を聞き、判断することができる生徒
- (3) たくましい人〔健やかな心身を育成するための実践力〕

心身ともに健康であり続けるために、何事にも挑戦し、自らを鍛えることができる生徒

5 中期的目標と方策

(1) 基礎・基本を確実に身に付け、活用できる力を育むために

- ① 檜原学園第三期(～R7)・四期(R8～)計画に基づき9年間を見通した系統性・連続性を意識した指導を行い、檜原学園の児童・生徒たちの学力向上につなげるとともに自立した学習者を育てる。
- ② 各教科等において育成すべき資質・能力の三つの柱を意識した指導法の工夫改善を行うとともに、デジタルとリアルのバランスを取りながら資質・能力の育成に取り組む。
- ③ ICTを活用した授業の研究・推進を行い、情報活用能力の向上と生徒の主体的活用を図るとともに、学びのスタイルを「知識習得型」から「価値創造・課題解決型」への転換を図る。
- ④ 特別支援教育への理解を深め、個に応じた教育を推進し、インクルーシブ教育を行う。

(2) 檜原村を愛し誇りに思い、豊かな人間性を育むために

- ① 豊かな自然や素材、地域人材を活用して地域の特色を生かした教育活動を展開する。
- ② 日本人としての自覚や郷土を愛し、誇りに思う心を育み、異なる文化との相互理解を促進するための教育を推進する。また、社会的・職業的自立に向けた資質・能力の育成、キャリア教育の充実を図る。
- ③ 道徳授業をはじめ、全ての教育活動において豊かな情操と心を培う指導を行う。
- ④ 総合的な学習の時間を中心として檜原学園の9年間を見通した系統性・連続性を意識した指導及び、檜原メソッドによる協働的探究学習を推進する。

(3) たくましく生きるための健康や体力を育むために

- ① 心身の健康指導を実践し、生徒一人一人に寄り添った細やかな指導を行う。
- ② 自主・自律・共生の精神を培い、個性の伸長を図る指導を行う。
- ③ 学校生活全般を通して体力・文化の向上を目指した指導を行う。
- ④ 学校に関わる全ての人々がウェルビーイングの向上を実感できる教育を推進する。

●令和7年度 中心的に取り組む内容

1. 「ふるさと檜原学習」（つなごう未来の檜原プロジェクト）の充実【第三期計画最終まとめの年】

将来の予測困難な時代において、子供たちには、自らの個性を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていく力を育てる必要がある。そのためには檜原村の持続可能な未来像を考えられる力を育むことが大事と考える。小学校での学びをつないで、檜原村のことを深く理解し、現在とのギャップから問題点を捉え、解決策を考え、実行する力を育てる。総合的な学習の時間を中心として各教科指導や様々な教育活動を通して、自分たちの故郷を大切に思い、檜原村の今と未来に貢献する生徒の育成を行う。学習の成果は、3月の学習発表会にて発信する。

《到達目標》

- 1 年生…檜原村のことを知る、学ぶ
 - 2 年生…檜原村の利点、課題について考えられるようになる
 - 3 年生…檜原村の未来について自分なりの考えをもてるようにする
2. 主体的に学び合う生徒の更なる育成
 3. 特別支援教育の更なる充実
 4. 学習の基盤となる能力、特に「情報活用能力」の更なる育成
 5. 一人1台端末など ICT を日常的に利活用した授業実践の推進

●令和7年度 校内研修

「振り返りを重点とした指導と評価の一体化」

- 1 「振り返りシート」の効果的な活用（2年目（令和6・7年度））
- 2 教員同士による授業力向上研修
- 3 OJT の推進（ミニ研修会など）

【取り組み目標】その1

基礎・基本を確実に身に付け、確かな力を育む教育活動を実践する。

◎小中一貫教育、檜原学園第三期計画(5年目)に基づき9年間を見通した指導の実践と検証

- ・小学校との合同行事、合同学習や交流学習の更なる充実を図る。
- ・小学校との授業交流や連携を積極的に実施する。
- ・「檜原学園学習スタンダード」の確立と実践を行う。
- ・9年間の系統性・連続性を意識した取組を実践する。

○生徒の学力向上を図る取組

(1)教科横断的な学習を充実させ、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

○生徒一人一人が、何のために学ぶのか、学んだことがどう役立つのかを実感、理解できるように、各種調査結果に基づいた「授業改善推進プラン」を作成、活用、分析して生徒の状況を随時把握しながら授業の方法や技術の改善を図る。

- ・一人1台端末などICTの日常的な利活用

デジタル教科書、電子黒板やタブレットPCを活用した指導を積極的に取り入れる。

全教科において、全教員が一人1台端末などICTを利活用した授業を実践する。

- ・見通しを立てたり、話し合い活動をしたり、振り返ったりする学習活動の実施

①授業のはじめ等に学ぶめあてと見通しなどの内容を示す。

②ペア、複数、最大数でも4人までのグループで学習をし、学び合いや友人の意見を通して自分の考えを再構築する。

③授業のおわりに何が理解できたか、他の教科に生かせることはないかなどを書かせる。

→振り返り：生徒の書く力の育成、教師側の理解度の確認（授業改善と評価につなげる）

(2)確かな学力を育むために、「書く力」「読解力」「自ら学ぶ力・自ら考える力」「コミュニケーション力」等を育成させる取組を全教科と総合的な学習の時間で多く設定する。

※「R80」などを取り入れることで、以下の特に重要な「書く力」を育てる。〔（1）との関連〕

- ・自分の気持ちなどを正確に相手に伝えられるように書くことができる。
- ・収集した情報を正確に分析し、分かりやすい要約文にまとめることができる。

(3) 学習の基盤となる能力、特に「情報活用能力」を育成する。

- ・①情報の真偽を吟味する力 ②複数の情報を結び付け、新たな意味を見出す力 ③問題発見、解決するために活用する力を生徒が主体的に活用できる力を育成する。
- ・教員の情報活用能力の向上を図るために、随時研修を行う。

◎特別支援教育の充実

- ・特別支援教育のさらなる理解と個に応じた指導方法を推進し、困難を抱える生徒のニーズに応じたインクルーシブ教育に取り組むとともに、教室環境におけるユニバーサルデザインの充実を図る。
- ・SC、心理士、村教育相談室や専門的な外部機関と連携した指導を推進する。
- ・村教育委員会と連携し、全教職員が特別支援教育に関する研修会等に参加して特別支援教育への理解や対応力を向上させる。

◎教職員の資質・能力の向上

- ・組織的な人材育成を行うために、教職員には、都教職員研修センターや多摩教育事務所などが主催する研修会への主体的な参加を促す。また、全国教員研修プラットフォーム(plant)を活用する、
- ・各研修会の報告(振り返り)を職員会議等で行い、全職員で共有する(還元研修)。
- ・学校におけるOJTを推進するために、ミニ研修会等を実施する。

【取り組み目標】その2

檜原村を愛し誇りに思い、豊かな人間性を育む教育活動を実践する。

◎ふるさと檜原学習(つなごう未来の檜原プロジェクト)の充実

思考ツール(学習マップ等)を活用して「総合的な学習の時間」「特別活動」等の年間計画をより充実させる。

1. 檜原学園として9年間の「総合的な学習の時間」の再構築と更なる充実
「総合的な学習の時間」を軸とした「檜原村の今と未来に貢献できる人」の育成を目指した檜原メソッドによる協働的探究学習を推進する。
2. 思考ツール(学習マップ等)の活用
思考力や表現力を高める。教科横断的に思考ツール(学習マップ等)活用の視点を取り入れることで、自分なりに方法を選択して解決に取り組むことができるようにする。
3. 「特別活動」の内容を再検討
生徒会活動の充実を図り、生徒による自治の力を高める。自己肯定感、自己有用感を育む。
キャリア教育との関連を再確認、再検討する。

◎キャリア教育の充実

- ・将来、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現できる力を育成する。
- ・小学校での学びをつなぎ、檜原村のことを調べ、深く理解し、持続可能な未来像について主体的に参画する態度を育む。
- ・キャリア・パスポートを活用して実感を伴った学びを推進したキャリア教育を行う。また、3年間を見通したキャリア探索プログラムの再構築を行い、更なる充実を図ることで、幅広い視野に立って自らのキャリア形成を考える力を育成し、生徒の自己実現につなげる。

◎人権教育の推進

- ・全教科を通して人権意識を高める授業を推進する。
- ・自己肯定感、自己有用感を高めて他者を思いやり、自他の生命を尊重する教育活動を推進し、安心・安全な学校環境を整える。
- ・教職員は、固定的な性別役割分担意識やアンコンシャス・バイアスに気付いて言動を見直していくなど、常に確認と振り返りを行い、男女平等教育を適正に実施する。
- ・人権教育担当教員による公開授業や研修を行い、人権課題に対する理解と知識を深める。
- ・西多摩郡人権教育推進委員会における研究授業を実施、公開する。(R8, 10年度担当校)
- ・人尊校第6ブロック連絡会における研究、発表を実施する。(R9, 10年度)

◎心の教育の推進

- ・「考え、議論する道徳」を意識した指導方法の工夫、改善を図りながら、全教員で対応した授業を行い、適正な評価を実践する。
- ・道徳教育推進教師による公開授業や研修、道徳授業地区公開講座の更なる充実を図り、学校、家庭、地域が一体となり豊かな情操や道徳心を育む。
- ・生徒指導においては、発達支持的生徒指導の側面に重点を置いた働きかけを行う。

◎郷土や日本の伝統・文化及び国際理解教育の推進

- ・郷土芸能鑑賞教室（小学校と連携）を開催する。
- ・文化・芸術体験活動として年1回の鑑賞教室を実施する。（R7:演劇 R8:古典芸能 R9:音楽）
- ・国際交流会（留学生が先生）を実施する。
- ・檜原村海外派遣事業へ協力をする。
- ・東京グローバルゲートウェイ（TGG）における英語体験活動を実施する。
- ・スピーキングテストの活用を図る。
- ・子ども国際交流音楽会における交流コンサートへ協力をする。
- ・宇宙連句づくり など

○学校図書館の活用と環境の整備

- ・図書館指導員と委員会が協働して生徒が活用しやすい学校図書館の環境づくりを推進する。
- ・活用方法の更なる充実を図る。

【取り組み目標】その3

たくましく生きるための健康や体力を育む教育活動を実践する。

○学校生活全般を通じた体力の向上に特化した教育活動の推進

- ・東京 ALPHA システムを活用し、生徒の運動に対する興味関心を高めるとともに、専門的競技経験のある選手等を招聘した実技指導を実践する。
- ・生徒の体力・文化向上に向けた取組を実践する。（学園運動会・マラソン大会・学習発表会）
- ・体力向上のために、スポーツの多様な楽しみ方を学ぶ体育授業の実践と生徒会、委員会によるイベントを実施して体力増進の機会の充実を図る。

○校内の教育相談体制の充実と外部機関との連携

- ・生徒一人一人に応じた指導の充実を図る。
不登校を出さない日々の教育活動実践、生徒の悩みを受け止め、寄り添った指導の実践
 - ① 生徒に寄り添った個別指導の充実
 - ② 生徒の心の変化の早期発見と適切な初期対応の充実
 - ③ 保護者、スクールカウンセラー、心理士、村教育相談室や関係機関との連携、相談体制の充実

◎健全育成の充実

- ・「いじめに関する授業」や日常的な声掛けなど、いじめを許さない指導を継続し、いじめの未然防止、早期発見を徹底するとともに生徒の主体的な行動を促す取組を行う。また、保護者、地域、教育委員会、警察などの関係機関との連携、協力（「チーム檜中」）を推進する。
- ・健康・安全に関する学習の充実を図る。
 - ◇「SOS の出し方に関する教育」を全学年で実施する。
 - ◇「性犯罪、性暴力の当事者にしないための「生命（いのち）の安全教育」」を推進する。
 - ◇「「GIGA ワークブックとうきょう」を活用した情報モラル教育」を推進する。
 - ◇「東京都の安全教育・防災教育ポータルサイトなどのデジタルコンテンツの利用」を推進する。
 - ◇ 防災教育（様々な自然災害を想定した避難訓練）の実施
 - ◇ 学校 2020 レガシーや東京 2025 デフリンピックに関する事項
 - ◇ セーフティ教室、交通安全教室（小学校との連携）、不審者対応訓練
 - ◇ がん教育講演会 ◇ 薬物乱用防止教室 ◇ 食育（栄養士との連携）◇ 歯科指導など

○部活動の充実

- ・陸上競技部、吹奏楽部の活動を通して、地道に努力することによる成功体験を味わわせる。

○放課後活動の充実

- ・部活動に所属していない生徒の帰属意識を高める活動を実施する。
- ・余暇活動を通じて心身の安定を図るとともに、学校生活を充実させる。

その他

○学校広報活動の充実

- ・ホームページの積極的な活用を図る。学校の様子、写真を毎日更新する（限定公開）。
- ・学校だより、学年だより等の広報活動を充実させる。